

ちば

千葉県農林水産業の動向

— 令和5年度版 —



令和5年6月

千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

千 葉 県

はじめに

近年、相次ぐ災害、人口減少、不安定な国際情勢など、本県を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方、成田空港の更なる機能強化やそれに伴う周辺整備が見込まれており、また、圏央道、北千葉道路など広域的な道路ネットワークが完成しつつある中で、半島性を克服し、県内の活力をより一層高める好機を迎えています。さらに、再生可能エネルギーの利用拡大やデジタル技術の更なる進展などにより、様々な分野で、急速にイノベーションが進むことが予想されます。

県では、「千葉県総合計画～新しい千葉の時代を切り開く～」の実現のために、具体的な取組を示した「千葉県農林水産業振興計画（令和4年度～7年度）」を令和4年3月に策定し、本県の農林水産業の更なる発展を目指しています。この計画では、「力強く、未来につなぐ 千葉の農林水産業」を基本目標として掲げ、産出額の増大や所得の向上に向け、次世代を担う人材の育成・確保、農林水産業の成長力の強化、市場動向を捉えた販売力の強化、地域の特色を生かした農山漁村の活性化、災害等への危機管理の強化に取り組んでいくこととしています。

本書は、令和5年度における千葉県農林水産業の動向をとりまとめたものです。

さつまいもなどの特に強化していく品目の振興、生産資材や飼料の高騰に対応した各種施策を、農林漁業者や関係団体の皆様と一体となって推進してまいります。

生産者や関係機関、関係団体の皆様におかれましては、本県農林水産業の振興のため、本書を御活用いただければ幸いです。

令和5年6月

千葉県農林水産部長 前田 敏也

目 次

はじめに

I 千葉県農林水産業の概要

1 千葉県のすがた	1
2 産業別就業人口	1
3 産業別県内総生産	2
4 土地利用	2
5 農業生産	3
6 森林・林業	4
7 漁業生産	4
8 農家・漁家率	5
9 食料自給率	5

II 農業の動向

1 農業産出額からみた本県農業	8
2 農業構造の動向	
(1) 農家	10
(2) 農業従事者	11
(3) 農業経営体・販売農家数の現状	12
(4) 農地所有適格法人等の現状	14
(5) 集落営農組織の現状	15
(6) 認定農業者	16
(7) 農業の新たな担い手	17
(8) 農業次世代人材投資事業	18
(9) 耕地	20
(10) 農用地の流動化と利用集積	22
(11) 都市農業	23
(12) 荒廃農地	23
(13) 多面的機能支払・中山間地域等直接支払・環境保全型農業直接支払	24
(14) 野生鳥獣による被害状況	26
(15) 生産基盤の整備	28
(16) 農業協同組合	32
3 主要農産物の生産動向	
(1) 米	34
(2) 麦	37
(3) 大豆	38
(4) 落花生	39
(5) いも類	40
(6) 野菜	41
(7) 果樹	46
(8) 花き・植木	47

(9) 環境にやさしい農業	49
(10) 飼料作物	52
(11) 畜産	54
4 主要農業構造指標の地域別特化	60

III 森林・林業の動向

1 森林資源	61
2 林業構造	62
3 森林整備	63
4 林産物	65
5 路網整備	69
6 森林病虫害	69
7 森林の公益的機能と県土の保全	69
8 県民の森	70
9 県営林・公益保全林	71
10 法人の森	71
11 里山活動団体	71
12 企業や団体等による森林整備	71

IV 水産業の動向

1 漁業生産の動向	
(1) 海面漁業・養殖業生産量	72
(2) 海面漁業・養殖業産出額	73
(3) 魚介藻類生産量の全国順位	73
(4) 内水面漁業の生産量	74
(5) 内水面養殖業の生産量	76
(6) 主な魚種別生産量	77
(7) 水産加工業	78
(8) つくり育てる漁業	80
2 水産業構造の動向	
(1) 漁業経営体数	81
(2) 業種別漁労体数	82
(3) 漁業就業者数	82
(4) 漁業の担い手の確保	83
(5) 漁業従事世帯員数	84
(6) 漁船数	85
(7) 水産業協同組合	86
(8) 沿海地区漁協等	88
(9) 漁港整備	89

V 横断的・戦略的な項目の動向

1 県産農林水産物・食品の輸出	91
-----------------	----

2	6次産業化	93
3	農林水産物直売所	94
4	新たな技術の開発	95

VI	東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の影響と対応	97
----	----------------------------	----

トピックス

・	物価高騰対策について	6
・	「みどりの食料システム法」の基本計画の策定	6
・	「黒アヒージョ」はじめました！	7
・	農業大学のリニューアルについて	19
・	高校生のアイデアが中山間地域を元気に ～中山間ふるさと活性化チャレンジ事業～	25
・	防災重点農業用ため池対策について	31
・	ジャンボタニシ被害軽減に向けた取組	36
・	省エネルギー型施設園芸への転換促進	48
・	全国和牛能力共進会への出品に向けた取組	59
・	地産地消給食メニュー提供の取組	79
・	ノリ養殖における食害対策について	79
・	流通拠点漁港における漁港・流通機能の強化の取組	90

[参考]

1	市町村別主要農業構造指標	106
2	千葉県農業の主要指標	110
3	千葉県農業の主要指標の推移	111
4	千葉県森林・林業の主要指標	112
5	千葉県水産業の主要指標	113
6	農林水産業災害の状況	114
7	生産資材(A重油・家畜飼料・肥料)の購入価格の推移	118
8	主要農畜産物の生産費の推移(水稲・生乳)	119
9	我が国の食料需給動向	121
10	千葉県農産物の全国ランキング(令和3年)	122
11	千葉県水産物の全国ランキング(令和3年)	126
12	農林水産部予算課別総括表(一般会計)	128
13	農業産出額上位道県における、当初予算額と農業産出額の推移	129
14	ちばの旬(青果物)	130
15	ちばの旬(花き)	132
16	ちばの旬(水産物)	134
17	千葉県で行われている漁業	135
18	千葉県農林水産部組織体系図	136
19	統計関係用語集	137
20	令和4年度の千葉県農林水産業の主なできごと	139

I 千葉県農林水産業の概要

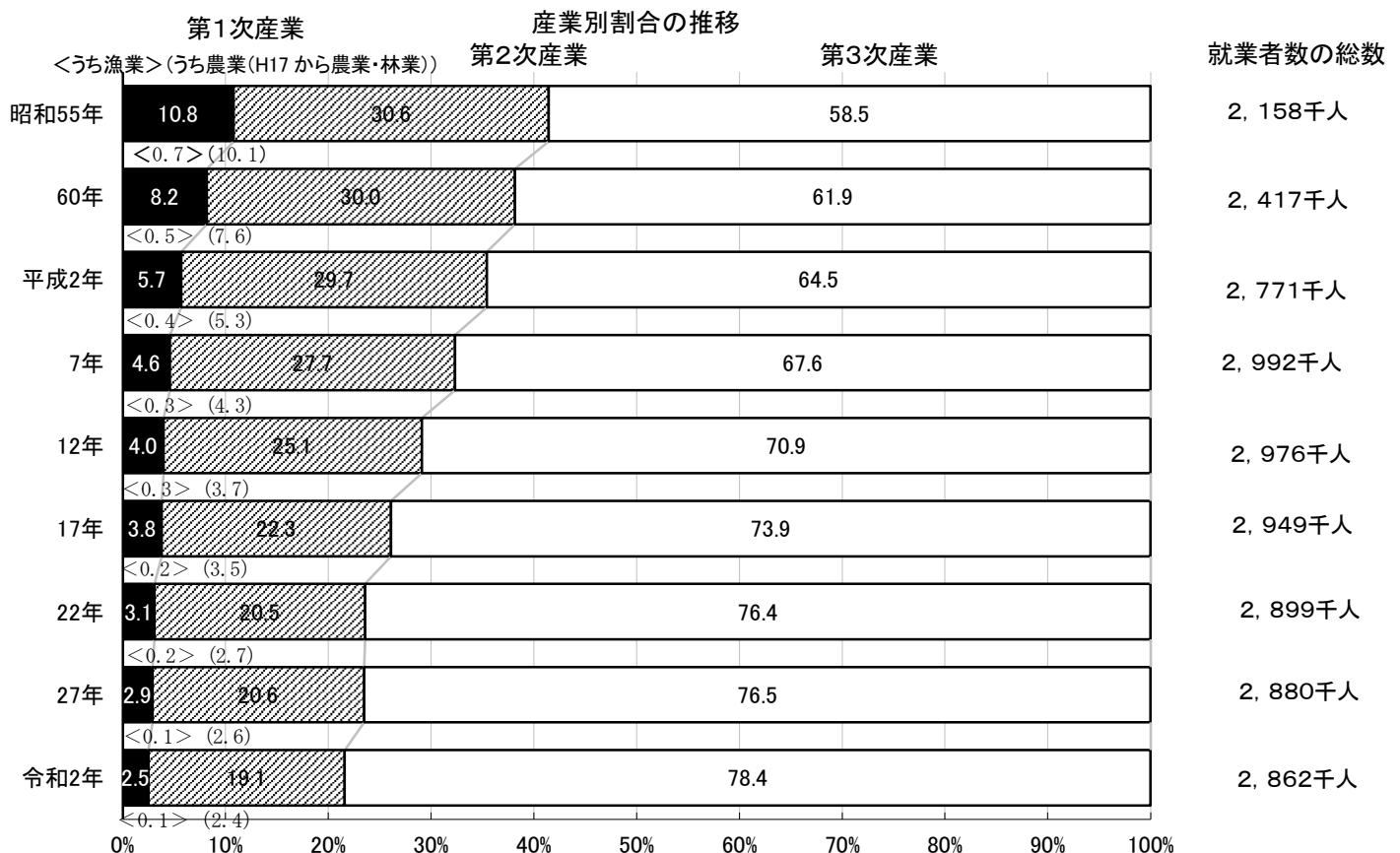
1 千葉県のすがた

- (1) 千葉県は、首都圏の東側に位置し、南東は太平洋、西は東京湾に面し、太平洋に突き出た半島になっている。また、北西は東京都と埼玉県に、北は茨城県に接している。
- (2) 面積は、5,156.74平方キロメートル、全国第28位であり、東京都と神奈川県を合わせたよりも広い。(令和4年10月1日現在)
 地勢は、南部の200~300m級の山々が続く房総丘陵、東京湾岸の低地、北部の比較的平坦な下総台地、利根川流域と九十九里沿岸に広がる平野となっている。(県内最高峰：愛宕山408m)
 海岸線の長さは、531km(令和3年3月31日現在)に及び、変化に富んだ景観を見せている。
- (3) 三方を海に囲まれた千葉県は、冬暖かく夏涼しい海洋性の温暖な気候である。特に南房総沿岸は、沖合を流れる暖流(黒潮)の影響を受け、冬でもほとんど霜が降らない。降水量は、夏季に多く、冬季は少ない気候となっている。

2 産業別就業人口(平成27年比 総就業者数18千人減、うち1次産業1.1千人減)

- (1) 県内総就業者数(令和2年)は2,862千人で、産業別には、第一次産業が69千人(産業別割合※2.5%)、第二次産業が527千人(同19.1%)、第三次産業が2,167千人(同78.4%)、分類不能の産業が99千人となっている。農業、林業は66千人(同2.4%)、漁業は3千人(同0.1%)となっている。
- (2) 平成27年と比較すると、総数で18千人、第一次産業で10.7千人、第二次産業で32.7千人減少し、第三次産業で84.2千人増加している。産業別の構成比はほぼ横ばいである。

※割合は、分母から「分類不能の産業」を除いて算出している。(資料：国勢調査)



3 産業別県内総生産（県内総生産は名目で2.6%減、農林水産業3.0%減）

- (1) 令和2年度の千葉県経済の規模（県内総生産）は名目で20兆7,756億円、実質で20兆538億円となり、経済成長率は名目で2.6%減、実質4.6%減となった。
- (2) 農林水産業の名目総生産額は1,868億円で、前年度に比べ3.0%減、県内総生産に占める構成比は0.9%となった。

経済活動別県内総生産（生産側・名目）

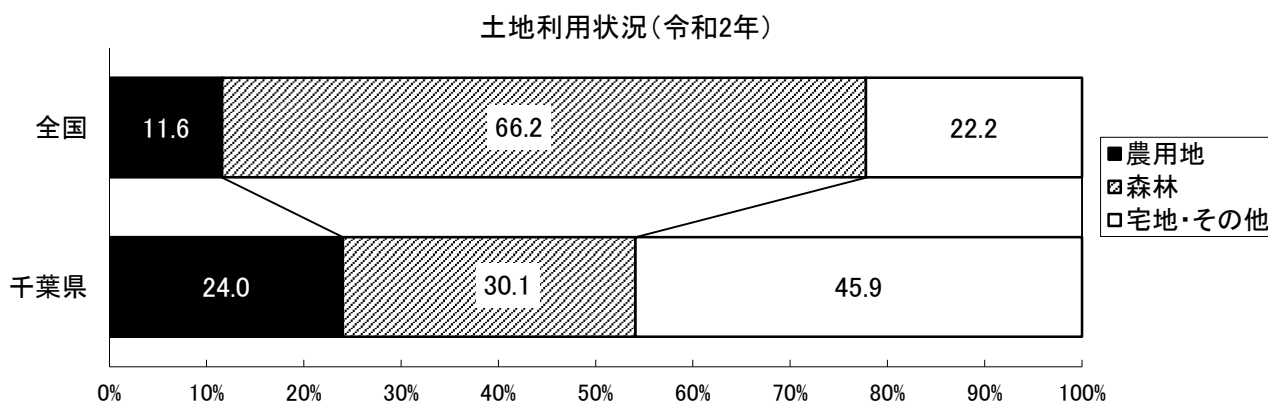
（単位：億円、%）

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
農林水産業	2,413	1.2	2,382	1.1	2,041	0.9	1,927	0.9	1,868	0.9
うち農業	2,245	1.1	2,212	1.0	1,881	0.9	1,785	0.8	1,721	0.8
うち林業	14	0.0	14	0.0	18	0.0	18	0.0	19	0.0
うち水産業	155	0.1	156	0.1	143	0.1	123	0.1	128	0.1
第2次産業	47,912	23.1	52,377	24.5	51,678	24.0	49,717	23.3	53,110	25.6
第3次産業	155,685	75.2	158,235	73.9	160,776	74.7	160,693	75.4	152,100	73.2
小計	206,010	99.5	212,993	99.5	214,496	99.6	212,337	99.6	207,078	99.7
輸入税	3,104	1.5	3,512	1.6	3,791	1.8	3,700	1.7	3,681	1.8
その他（控除）	2,115	1.0	2,494	1.2	3,035	1.4	2,784	1.3	3,003	1.4
県内総生産	206,999	100	214,011	100	215,251	100	213,253	100	207,756	100

（資料：令和2年度千葉県県民経済計算）

4 土地利用（全国に比べ農用地割合は2倍）

- (1) 千葉県の総面積は51.6万haであり、主な土地利用状況(令和2年)をみると、農用地が12.4万ha(24.0%、前年比1,037ha減)、森林が15.5万ha(30.1%、前年比400ha減)、宅地・その他が23.7万ha(45.9%、前年比1,434ha増)となっている。
- (2) 全国平均と比べると農用地、宅地・その他の割合が約2倍と高くなっており、森林の割合は全国平均の半分以下である。



千葉県の土地利用(令和2年)

（単位：万ha・%）

項目	総面積	農用地	森林	宅地・その他	備考
全 国 (構成比)	3,780 (100.0)	437 (11.6)	2,503 (66.2)	840 (22.2)	資料： 全 国：「令和3年度土地に関する動向」 (国土交通省調べ) 千葉県：土地利用現況把握調査 (政策企画課調べ)
千 葉 県 (構成比)	51.6 (100.0)	12.4 (24.0)	15.5 (30.1)	23.7 (45.9)	

5 農業生産（産出額は3,471億円で全国第6位、生産農業所得は全国第7位）

- (1) 令和3年の農業産出額は3,471億円（前年比382億円減）で、全国第6位となった。
- (2) 農業産出額の構成は、米が466億円（前年比175億円減）、野菜・果実・花きを合わせた園芸が1,568億円（前年比87億円減）、畜産が1,094億円（前年比100億円減）と、園芸を中心とした農業が展開されており、首都圏の重要な食料供給基地の役割を担っている。
- (3) 生産農業所得は1,257億円（前年比36億円減）となり、全国第7位となった。

千葉県農業生産の位置（令和3年）

項目	順位	1	2	3	4	5	6	7	全国
農業産出額 (億円)		北海道 13,108	鹿児島県 4,997	茨城県 4,263	宮崎県 3,478	熊本県 3,477	千葉県 3,471	青森県 3,277	88,384
生産農業所得 (億円)		北海道 4,919	鹿児島県 1,712	茨城県 1,566	熊本県 1,485	宮崎県 1,317	青森県 1,294	千葉県 1,257	33,479

（資料：令和3年農業産出額及び生産農業所得）

主な部門別の農業産出額（令和3年）

（単位：億円・%）

項目	合計	米	豆類	いも類	野菜	果実	花き	畜産	畜産の主な内訳		
									乳用牛	豚	鶏
千葉県 (構成比)	3,471 (100.0)	466 (13.4)	93 (2.7)	215 (6.2)	1,280 (36.9)	101 (2.9)	187 (5.4)	1,094 (31.5)	257 (7.4)	393 (11.3)	326 (9.4)
千葉県の 全国順位	6	8	2	4	3	22	2	9	5	5	9
全国 (構成比)	88,384 (100.0)	13,699 (15.5)	697 (0.8)	2,358 (2.7)	21,467 (24.3)	9,159 (10.4)	3,306 (3.7)	34,048 (38.5)	9,222 (10.4)	6,360 (7.2)	9,364 (10.6)
〈参考〉 R2 千葉県 (構成比)	3,853 (100.0)	641 (16.6)	81 (2.1)	245 (6.4)	1,383 (35.9)	111 (2.9)	161 (4.2)	1,194 (31.0)	255 (6.6)	447 (11.6)	388 (10.1)
〈参考〉 H23 千葉県 (構成比)	4,009 (100.0)	730 (18.2)	71 (1.8)	209 (5.2)	1,568 (39.1)	162 (4.0)	176 (4.4)	1,034 (25.8)	262 (6.5)	347 (8.7)	365 (9.1)

（資料：農業産出額及び生産農業所得）

農業構造（令和4年、2020年）

（単位：ha・経営体・%）

項目	耕地	田	畑	農業 経営体	個人 経営体				団体 経営体	法人 経営体
					主業	準主業	副業的			
千葉県 (構成比)	121,500 (100)	72,100 (59)	49,400 (41)	35,420 (100.0)	34,459 (97.3)	9,114	4,665	20,680	961 (2.7)	895
全国順位	9	11	7	6	6	5	10	8	13	6

（資料：令和4年耕地及び作付面積統計・2020年農林業センサス）

6 森林・林業（全国に比べ森林率は約2分の1）

- (1) 千葉県は森林面積は14.8万haで全国第40位、蓄積は26.3百万m³で42位、森林率は28.8%で46位と総体的に低位にある。また、人工林率は33.4%で、全国平均40.7%を下回っている。
- (2) 林家数は1.1万戸で全国第28位であり、林家1戸当たりの保有山林面積は3.3haで全国平均の49%である。
- (3) 令和3年の特用林産物の生産は、竹材が10.0千束で全国第9位(前年7位)、たけのこは320.6tで13位(前年14位)と比較的上位にある。生しいたけは3,476.3tで全国第6位(前年11位)となっている。

森林資源と林家数及び林産物生産量

項目	森林資源				林家数 (万戸)	生産量			
	森林面積 (万ha)	人工林率 (%)	蓄積 (百万m ³)	森林率 (%)		素材 生産量 (千m ³)	生しいたけ 生産量 (t)	竹材 生産量 (千束)	たけのこ 生産量 (t)
千葉県	14.8	33.4	26.3	28.8	1.1	50	3,476.3	10.0	320.6
全国順位	40	36	42	46	28	43	6	9	13

- (注) 1 千葉県の森林面積、人工林率、蓄積、森林率はR4.3.31現在の数値(森林課調べ)
 2 森林面積、人工林率、蓄積、森林率の全国順位はH29.3.31現在の数値(林野庁「森林資源の現況」)
 3 林家数は2020年農林業センサス
 4 素材生産量、特用林産物の生産量及び全国順位(生しいたけ、竹材、たけのこ)は、令和3年次の数値(令和3年木材統計、令和3年特用林産基礎資料)

7 漁業生産（海面漁業漁獲量が全国第7位、海面陸揚金額が全国第6位）

- (1) 令和3年の海面漁業・養殖業生産量(属人)は、109,057t(前年比4.8%増、5,013t増)で全国第12位(前年12位)、産出額は約196億円(前年比22%減、55億円減)で全国19位(前年17位)となった。生産量の内訳は、海面漁業漁獲量が105,505t(前年比5.6%増、5,603t増)で全国第7位(前年8位)、海面養殖業収獲量が3,552t(前年比14.2%減、590t減)で全国第23位(前年22位)である。
- (2) 令和2年の海面陸揚金額(属地)は、465億円(前年比2.4%減、12億円減)で全国第6位(前年7位)である。
- (3) 令和3年の内水面漁業・養殖業生産量は125t(前年比9.5%減)で、全国33位(前年34位)である。内訳は、内水面漁業漁獲量が26t(前年比48.0%減、24t減)、内水面養殖業収獲量が99t(前年比12.5%増、11t増)である。

漁業生産量(令和3年)・海面陸揚金額(令和2年)

順位	海面漁業・養殖業生産量		海面漁業漁獲量		海面陸揚金額	
	都道府県名	生産量(t)	都道府県名	漁獲量(t)	都道府県名	金額(億円)
1位	北海道	1,018,914	北海道	910,347	北海道	1,401
2位	茨城県	299,686	茨城県	299,686	宮城県	709
3位	長崎県	270,736	静岡県	249,515	長崎県	521
4位	宮城県	267,356	長崎県	247,359	鹿児島県	497
5位	静岡県	251,671	宮城県	184,316	静岡県	468
6位	青森県	146,751	三重県	107,377	千葉県	465
7位	愛媛県	142,307	千葉県	105,505	愛媛県	421
8位	三重県	128,011	宮崎県	101,029	青森県	360
9位	宮崎県	114,395	島根県	88,917	佐賀県	314
10位	広島県	113,247	鳥取県	85,111	福岡県	311
11位	岩手県	110,730	岩手県	79,757	兵庫県	270
12位	千葉県	109,057	愛媛県	76,625	大分県	228

(資料：令和3年漁業・養殖業生産統計、令和2年漁港港勢)

8 農家・漁家率（農家、漁家共に年々減少）

- (1) 県総世帯数及び総人口に占める農家率は、都市化に伴う世帯数・人口の増加と、農家数・農家人口の減少によって年々低下している。
- (2) 平成7年に2,015千戸だった県の総世帯数は、令和2年には2,774千戸と759千戸あまり増加した。

これに対し、平成7年に105千戸だった農家数は、令和2年には、51千戸と54千戸あまり減少し、5.2%だった農家率は、1.8%まで減少した。

また、平成7年に5千戸だった漁家数は、平成30年には2千戸と3千戸あまり減少し、漁家率も0.2%から0.1%と減少した。

千葉県の農家・漁家率

(単位：千戸・千人・%)

区分	平成7年	12年	17年	20年	22年	25年	27年	30年	令和2年
総世帯数	2,015	2,173	2,325	2,454	2,516	2,573	2,609	2,726	2,774
農家数	105	92	82	—	74	—	63	—	51
農家率	5.2	4.2	3.5	—	2.9	—	2.4	—	1.8
漁家数	5	4	4	3	—	2	—	2	—
漁家率	0.2	0.2	0.2	0.1	—	0.1	—	0.1	—

—：未公表のもの

(資料：千葉県毎月常住人口調査、農林業センサス、漁業センサス、千葉県農林水産統計年報)

(注) 総世帯数は千葉県毎月常住人口調査の10月1日時点の数値。

漁家数は漁業センサス及び千葉県農林水産統計年報の個人経営体数

9 食料自給率（生産額ベースは54%、カロリーベースは24%）

- (1) 千葉県の令和2年度のカロリーベースの食料自給率（概算値）は、24%で、全国第33位である。
- (2) 千葉県の食料自給率が低い理由としては、熱量が低い野菜等の生産が多いこと、人口が多いことがあげられる。

令和2年度都道府県の食料自給率及び全国順位(概算値)

全国順位	都道府県	食料自給率		〈参考〉人口
		カロリーベース	(生産額ベース)	
	全 国	37%	(67%)	126,146 千人
1位	北海道	217%	(4位) (216%)	5,225 千人
2位	秋田県	200%	(9位) (158%)	960 千人
3位	山形県	143%	(6位) (189%)	1,068 千人
8位	鹿児島県	77%	(2位) (283%)	1,588 千人
13位	茨城県	68%	(14位) (126%)	2,867 千人
15位	宮崎県	61%	(1位) (301%)	1,070 千人
33位	千葉県	24%	(31位) (54%)	6,284 千人
45位	神奈川県	2%	(45位) (12%)	9,237 千人
46位	大阪府	1%	(46位) (6%)	8,838 千人
47位	東京都	0%	(47位) (3%)	14,048 千人

カロリーベース

都道府県別食料自給率 (%) =

1人・1日あたりの各都道府県産熱量

----- × 100
全国の1人・1日あたり供給熱量 (2,271kcal)

純食料100gあたりの熱量

米(342.0kcal)・いも類(71.1kcal)・

野菜(27.5kcal)・果実(69.4kcal)・

肉類(194.0kcal)

(令和2年度食料需給表(確定値))

(資料：令和2年度 都道府県別食料自給率(概算)、総務省「人口推計」(令和2年10月1日現在))

物価高騰対策について

世界的な穀物需要の増加やエネルギーの価格の上昇に加え、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢等の影響により、飼料や燃油、資材、肥料等の価格が高騰している状況が続きました。

これらにより、県内の農林漁業者の経営に大きな影響を与え、県産農林水産物の安定供給に支障を及ぼすおそれがあることから、県では独自の緊急対策として、家畜飼料の購入費用、施設園芸におけるヒートポンプ、保温設備や省コスト型の漁業用機器の導入費用、漁業用資材の購入費用、農業水利施設の維持管理に要する電気代について支援しました。

物価高騰は現在も続いていることから、今後も、物価高騰に関する動きを注視するとともに、省エネ、省コストにつながる技術等の普及や資器材の導入支援などを進めていきます。

「みどりの食料システム法」の基本計画の策定

農林漁業に由来する環境への負荷の低減を図るため、県と市町村が共同で「みどりの食料システム法に基づく法定計画」を策定し、新たな認定制度を令和5年度から始めます。

化学肥料や化学農薬の使用量低減、農林水産業における温室効果ガスの排出量削減等を目標に定め、対象となる活動を認定するなど、環境負荷低減の取組を推進していきます。



化学肥料や化学農薬の使用量を慣行の1/2以下にして栽培されたらばエコ農産物



ヒートポンプ等の導入により温室効果ガスの1種類であるCO2の排出量削減のための取組

「黒アヒージョ」はじめました！

農林水産業が盛んな千葉県には、食卓を彩る新鮮でおいしい食材がたくさんあります。そこで、若い世代に、料理を通じて千葉県の魅力を発信できないかと、若手職員で検討を重ねた結果、県内の多彩な農林水産物を活用できるアヒージョに、隠し味として千葉県にゆかりの深い調味料である醤油を加え、「黒アヒージョ」として提案することとしました。

＜アヒージョを選んだポイント＞

いろいろな食材と相性が良いので、千葉のおいしい農林水産物を活用できる。
調理が簡単で、さまざまなアウトドアシーンで活躍する。
彩りが良く写真映えするので、SNSにもぴったりの料理。

＜コンテストやフェアの開催＞

令和4年度は、『黒アヒージョ』料理コンテストを開催し、県内の飲食店から応募があった40作品の中からグランプリ1作品、準グランプリ2作品を選定しました。また、「黒アヒージョ」を注文いただいた方に、アニメ「ヤマノススメ Next Summit」とコラボしたオリジナル缶バッジをプレゼントする「黒アヒージョフェア」を開催しました。

今後もフェアなどを通して「千葉のご当地グルメといえば黒アヒージョ」と言ってもらえるように、施策を進めてまいります。



「黒アヒージョ」メインビジュアル



グランプリ受賞作品